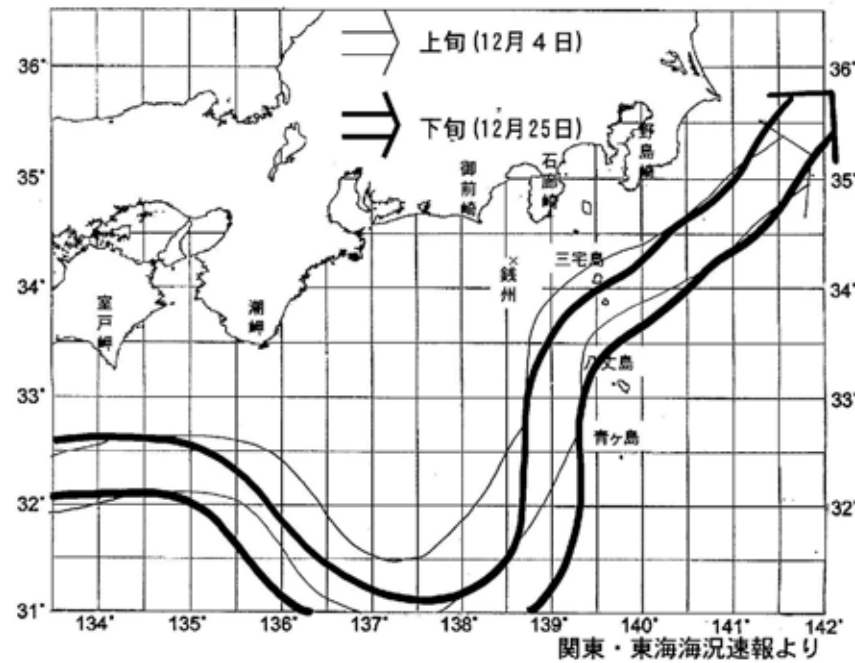


# 漁海況月報

平成 30 年 12 月 1 日

No. 12 ~ 12 月 31 日

静岡県水産技術研究所  
(電話 054-627-1815)  
静岡県水産術研究所 伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)



12 月定地水温の旬平均値 ( ) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	19.4	19.7	19.8	20.5	19.5	19.2
	1.9	1.8	2.5	2.5	1.8	2.4
中旬	17.4	18.2	18.0	19.7	17.6	17.4
	0.8	1.1	1.6	2.8	1.0	1.3
下旬	16.8	17.5	17.6	18.6	17.5	17.3
	1.2	1.2	1.9	2.7	1.8	2.4
月	17.8	18.5	18.5	19.6	18.2	17.9
	1.3	1.4	2.0	2.7	1.6	2.1

\* 地頭方水温観測は終了しました。

## [ 黒潮流路 ]

12 月を通じて A 型で、上旬は潮岬沖 32.5°N から南東に進み、31.5°N、137.5°E 付近から北東に向かい、三宅島付近を経てさらに北東に流去した。中旬は潮岬沖 31.5°N 付近から南東に進み、31.5°N、

137°E 付近から北北東に向かい、139°E 付近を北上後、三宅島付近から北東に流去した。下旬は潮岬沖 32°N から南東に進み、31°N、137.5°E 付近から北東に進み、139°E 付近を北上後、八丈島・三宅島間を経て北東に流去した。

概ね月を通じて、八丈島・三宅島付近の黒潮北流部から、遠州灘沖、熊野灘に向かう内側反流が形成された。

## [ 県下沿岸域 ]

12 月上旬は、伊東、稲取、沼津、焼津「高め」、下田、雲見「かなり高め」であった。中旬は、伊東、稲取、沼津、焼津「やや高め」、下田「高め」、雲見「かなり高め」であった。下旬は、伊東、稲取「やや高め」、下田、沼津、焼津「高め」、雲見「かなり高め」であった。

## [ 竿釣りカツオ ]

12 月の県内主要 5 港 (沼津、清水、焼津、小川、御前崎) における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げはなかった(前年同月の水揚量は 0.4 トン)。

竿釣り (近海 + 沿岸船) カツオ水揚量 (県内主要 5 港)

期間	水揚量 (ト)	水揚隻数	平均水揚量/隻 (ト)	平均単価 (円/kg)
30 年 12 月上旬	-	-	-	-
中旬	-	-	-	-
下旬	-	-	-	-
30 年 12 月計	-	-	-	-
29 年 12 月計	0.4	2	0.2	525
28 年 12 月計	1.6	1	1.6	151

## [ 定置網 ]

伊豆半島東岸大型定置網 7 か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は 142.8 トンで前年の同漁場の水揚量 (98.4 トン) の 1.45 倍であった。また、1 か統あたりの平均水揚量は、20.4 トンで前年 (14.1 トン) の 1.45 倍、平年 (昭和 57 ~ 平成 29 年の平均 43.5 トン) の 47% であった。水揚量の多い漁場は、古網漁場 (27.9 トン、マルソウダ、さば類、アカカマス) 次いで富戸漁場 (24.4 トン、サンマ、マルソウダ、さば類) であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁 (表) の通りで、マルソウダは 47.6 トンで前年比 6.51 倍、平年比 6.1 倍と前年、平年を大きく上回り、12 月の漁獲量としては昭和 58 年以降最も漁獲量が多かった。漁獲されたマルソウダは尾叉長 30cm 前後主体であった。サンマは 39.9 トンで前年比 5.6 倍、平年比 1.0 倍であった。さば類は 12.1 トンで前年比 56%、平年比 15% でゴマサバ主体であった。スルメイカは 8.1 トンで前年比 2.7 倍、平年比 24% であった。ハガツオは 5.3 トンで前年比 664 倍、平年比 2.9 倍と好調であった。

多獲された魚種の主な漁場と各漁場の漁獲量の割合は次頁 (表) の通りで、マルソウダは古網漁場が 32% (15.3 トン) 伊豆山漁場が 24% (11.5 トン) サンマは富戸漁場が 32% (12.9 トン) 谷津漁場が 28% (11.0 トン) 川奈漁場が 25% (10.0 トン) さば類は川奈漁場が 28% (3.4 トン) 古網漁場が 24% (2.9 トン) 伊豆山漁場が 20% (2.4 トン) スルメイカは古網漁場が 21% (1.7 トン) 北川漁場が 18% (1.5 トン) ハガツオは川奈漁場が 28% (1.5 トン) 赤沢漁場が 21% (1.1 トン) を占めた。

(表) 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
マルソウダ	47.6	6.51	6.06	古網、伊豆山
サンマ	39.9	5.57	1.01	富戸、谷津、川奈
さば類	12.1	0.56	0.15	川奈、古網、伊豆山
スルメイカ	8.1	2.67	0.24	古網、北川
ハガツオ	5.3	664	2.89	川奈、赤沢

## [ サバ 棒 受 網 ]

小川港所属の棒受網漁船は棒受網で操業し、漁場は月を通じて三宅や三本に形成された。水揚量はゴマサバ66トン(前年同月比1.2倍)であり、1隻あたり水揚量はゴマサバ16.4トン(前年同月9.2トン)であった。マサバの水揚げはなかった。

ゴマサバの1kgあたり平均単価は106円で前月(102円)を上回ったが、前年同月(135円)を下回った。

漁獲物については体長測定を行っていない。

小川港 さば類(棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
30年12月上旬		25	1	2		12.3		99	三本、三宅
中旬		41	1	2		20.5		111	三宅
下旬									
30年12月計		66	2	4		16.4		106	三宅、三本
29年12月計		55	4	6		9.2		135	銭洲、三本
28年12月計	1	347	7	20	0.0	17.4	183	93	三本

\*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

\*表中の「-」は水揚げがなかったことを示す。

## [ シラス船曳網 ]

県内主要6港における1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が115kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が136kgであった。平均水揚量は127kgと前年同期(102kg)の1.2倍、平年同期(過去5か年平均:221kg)の57%であった。また、総水揚量は94.7トンで前年同期(75.3トン)の1.3倍、平年同期(201.4トン)の47%と、前年同期を上回り、平年同期を下回った。平均単価は1,356円/kgと、前年同期(1,847円/kg)の73%、平年同期(921円/kg)の1.5倍と、前年同期を下回り、平年同期を上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(ト)	延日数	延統数	平均水揚量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	5.2	6	44	118	961
舞 阪	19.5	6	189	103	1,278
福 田	18.6	6	140	133	1,289
御前崎	13.5	4	44	306	1,025
吉 田	24.6	9	170	145	1,354
静 岡	13.3	8	160	83	2,058
平成30年12月計	94.7	39	747	127	1,356
平成29年12月計	75.3	44	742	102	1,847
平成28年12月計	152.6	38	625	244	711

\*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

\*平年同期:過去5か年(平成25~平成29年)平均値

## [ まき網(いわし類) ]

マイワシの水揚量は、伊東港では85.0トン(前年同月比83.9%、平年同月比1.8倍)、沼津港では5.0トン(前年同月比18.9倍、平年同月比31.3%)、小川港では106.4トン(前年同月6kg、平年同月比6.6倍)、静浦港では水揚げがなかった。カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港において水揚げがなかった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシ、カタクチイワシともに水揚げがなかった。

\*平年:過去5か年(平成25~平成29年)平均値

## [ 調査船駿河丸の動向 ]

12月3日 公共用水域水質測定調査 (1日間)

12月10日 ~ 12月11日 地先定線観測調査 (2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

